



WORLD
FEDERALIST MOVEMENT
OF JAPAN

世界連邦

NEWSLETTER

2024年10月10日 第685

世界連邦日本国会委員会が6月に国連高官らとの意見交換会を3度開催

世界連邦日本国会委員会は6月に国連高官らとの意見交換会を短期間に3度にわたって開催した。6月13日には国連事務次長(政策担当)ガイ・ライダー氏、19日には国連事務次長(兼 国連大学学長)のチリツィ・マルワラ氏および国連システム学術評議会のメンバー、25日には国連事務次長(兼 国連開発計画(UNDP)副総裁)ハオリャン・シュウ氏との意見交換会である。

<6月13日 国連事務次長(政策担当)ガイ・ライダー氏>



ガイ・ライダー氏は、ガザやウクライナ、アフリカなどにおける紛争、あるいは SDGs や気候危機などを例に、現代の多国間主義(multilateralism)が大きな課題に直面していることを取り上げた。国民感情や政治家の考えが自国利益に傾きがちであり、多国間協力の妨げとなっている。国連はシステムを変更、改良し、現代の情勢に適合するように変化していかなくてはならない。9月に国連で行われるサミットにおいて、こうした問題に取り組むため、「未来サミット」が開かれ、pact for the future が採択される予定である。

国会議員本人出席は以下の通り(敬称略) [自民] 衆:小田原潔・柴山昌彦・下村博文・仁木博文・藤井比早之、参:猪口邦子 [立憲] 衆:桜井周・西村ちなみ・中川正春、参:塩村あやか・福山哲郎・水野素子 [維新] 参:梅村みずほ [公明] 参:新妻秀規 [共産] 参:山添拓 [国民] 参:浜口誠 [社民] 参:福島瑞穂 [無所属] 参:齊藤健一郎・堂込麻紀子



<6月19日 国連事務次長 兼 国連大学学長のチリツィ・マルワラ氏ら>



国連システム学術評議会との意見交換会では、まずリセ・ハワード現会長とフランツ・バウマン次期会長の挨拶があった。その後、チリツィ・マルワラ国連事務次長(兼 国連大学学長)は主に AI の善用と悪用の二つの可能性について問題提起した。AI の善用のため、AI 教育を充実させ、有害ではなく有益な目的のために開発者が AI を開発するよう適切なインセンティブを提供すること、適切な政策と規制による AI の管理、標準規格の開発などの必要性を述べた。



国会議員本人出席は以下の通り（敬称略）

[自民] 衆：衛藤征士郎・小田原潔、参：猪口邦子 [立憲] 衆：楼井周、参：塩村あやか・福山哲郎・水野素子 [維新] 参：梅村みずほ [公明] 参：新妻秀規 [教育] 衆：斎藤アレックス [社民] 参：大椿ゆうこ [無所属] 参：斎藤健一郎・高良鉄美

<6月25日 国連事務次長(兼 国連開発計画(UNDP)副総裁)ハオリャン・シュウ氏>



国連事務次長(兼 国連開発計画(UNDP)副総裁)ハオリャン・シュウ氏が問題提起した。2030 までの SDGs の達成状況が 15%にとどまり、このままでは 7000 万人が貧困に陥ることになる。また、戦争や気候変動によって 17000 万人が強制的な移住状態に陥っている。国連開発計画の年間予算は約 4500 億ドルであるが、そのうち紛争に関する事業に 5 割を費やした。ウクライナへの支援、特にエネルギーの復旧などを重点的に行なっている。ガザでは、飲料水の提供や太陽光発電の支援、紛争後の社会で女性が社会復帰できるようにするための支援なども実施している。



国会議員本人出席は以下の通り（敬称略） [自民] 衆：逢沢一郎・衛藤征士郎・小田原潔、参：猪口邦子 [立憲] 衆：阿部知子・中川正春、参：塩村あやか・福山哲郎 [維新] 衆：青柳仁士 [公明] 参：谷谷正明・新妻秀規 [国民] 参：川合孝典・浜口誠 [無所属] 衆：松原仁

短期間に連続して開催すると集まりが悪くなるのではないかと、特に 6 月 25 日の会合は 6 月 23 日に通常国会が閉じた後で集まりが心配だったが、熱心に出席し、積極的に発言する先生方が多くて良かった。また、国連高官が来日の際に世界連邦日本国会委員会との意見交換会に来てくれることが多かったことも喜ばしい。9 月中旬、国連におけるイベントに国会委員会より谷本真邦次長が参加した際も、国連高官から世界連邦運動(World Federalist Movement)という言葉が何度も出てきたという。

秋は解散総選挙が予定されており、しばらく国会での行事は行えないかも知れないが、国会が落ち着き次第、こうした行事を国会議員の皆様が今後も積極的に行なってくださることを大いに期待している。

(塩浜 修)

比叡山平和サミット、広島平和祈念式および関連行事に参加して

<8月4日 比叡山宗教サミット>

2024 年(令和 6 年)8 月上旬、毎年の恒例となっている広島平和記念式典など、一連の行事に参加した。

まず 8 月 4 日、日本仏教の母山である天台宗総本山比叡山延暦寺で開催された「第 37 回比叡山宗教サミット」に参加した。本式典は、延暦寺会館内で行われる第一部と、外広場で行われる第二部に分かれて実施された。延暦寺会館 2 階講堂での第一部は、ペシャワール会の藤田千代子氏から、同会の会長であった故中村哲医師の意思を継いだ団体の取り組みや想いが述べられた。

第二部は、「一隅を照らす会館」前の「祈りの広場」で執り行われ、最初に 1987 年 8 月 3 日の叡山宗教サミ

ットにおいて採択された比叡山メッセージを朗読、その後、午後3時30分に各宗教の代表者が登壇し、平和の鐘の音とともに平和祈願の黙祷を捧げた。今年100歳を迎えられた天台座主大樹孝啓猊下も登壇してご挨拶をされた。

<8月5日 核廃絶に関する超党派国会議員らによる討論会>

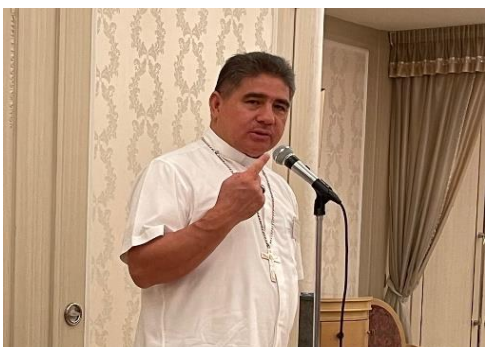
翌5日は広島に移動し、「広島原爆の日」を前に広島弁護士会館で開催された、「核兵器廃絶日本NGO連絡会」と「核兵器をなくす日本キャンペーン」の共催の討論会『核兵器廃絶に向けた日本の役割～核の非人道性を想起して～』に、国会の各党代表、国連より中満泉国連事務次長、日本被団協の和田征子事務局次長など被爆者をはじめとする市民社会の方々とともに参加した。この討論会は、ノーベル平和賞を受賞したICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)の川崎哲国際委員が司会をして行われた。例年同様、筆者は国会議員などに対応して参加した。会議では核抑止論の是非に関してや、2025年開催の核兵器禁止条約締結国会議に日本がオブザーバー参加することに関して議論が行われた。総括では、日本のオブザーバー参加に関して言及はされなかったが、日本の政党全てが核兵器のない世界を目指している点で一致していることが再確認された。



<8月6日 広島原爆慰霊式典、および世界連邦日本宗教委員会等との平和懇談会>



「広島原爆の日」である6日には、広島市平和公園にて午前8時より広島市原爆死没者慰霊式及び平和記念式が行われた。式典には岸田文雄内閣総理大臣をはじめ、109カ国の大使を含む約5万人が参列した。この一年で死亡が確認された5079名を含む34万4306名の原爆死没者名簿が改めて原爆慰霊碑に納められ、原爆投下時間の午前8時15分には全員で黙祷が捧げられた。その後、松井一實広島市長は平和宣言で「平和文化を共有できる世界を創っていきましょう」と呼び掛けた。本年は原爆投下から79年を経たが、多くの方々の参列のもと、平和への想いを新たにされた式典であった。



広島平和式典の後、メルパルク広島において世界連邦日本宗教委員会と広島県宗教連盟主催の平和懇談会が行われ、筆者は関連団体の世界連邦日本国会委員会から参加した。懇談会では、宗派を問わず、宗教者が同じ食卓を囲み平和について語り合った。本懇談会には、バチカン市国駐日教皇大使のフランシスコ・エスカテンテ・モリーナ大司教も参加され、平和における宗教と、それを導く宗教者の役割、そして原爆投下の日に各宗教の宗教者が一堂に介していることの重要性を強調された。

その後、各参加者が中央のマイクスタンドから、平和への思いなどを簡潔に述べた。

このように、筆者は毎年、広島原爆の日を中心に、平和についてのさまざまな式典に参加させていただいている。8月6日は、世界連邦運動協会の前身の世界連邦建設同盟が1948年(昭和23年)に設立された日でもある。広島・長崎に原爆が投下されたことが世界連邦運動設立のきっかけの一つとなったことを念頭に置いて、今後も関連行事に参加し、思考を深めていきたいと思う。

(谷本 真邦)

一般社団法人世界連邦運動協会の顧問就任にあたって

このたび一般社団法人世界連邦運動協会の顧問を拝命致しましたジュディ・オングです。



私はワールド・ジャパンの親善大使やポリオ根絶大使も務めており、開発途上国の子どもたちが幸せに暮らせるよう活動してきました。以前から親しくさせていただいていた、世界連邦運動協会の大橋光夫会長から世界連邦についてお話をお聞きし、これこそ人類の生存・未来の子どもたちの幸せのために必要なことだと思いました。

一般社団法人世界連邦運動協会には、終戦直後から活動を続けてきた方々も多いと伺いました。皆様のご経験に支えられながら、私も精一杯お役に立ちたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

ジュディ・オング氏 略歴

歌手・俳優・木版画家

台湾生まれ。3歳で来日し、女優として11歳の時、日米合作映画「大津波」でデビュー。

歌手デビューは16歳、数々のヒットを飛ばし、1979年には「魅せられて」が200万枚の大ヒット、日本レコード大賞他を多数受賞。90年代よりアジアの子供たちのための「北京平和音楽祭」を初め、チャリティイベント「台湾大地震ハート・エイド」「ハートエイド四川」をプロデュース。

その後も台湾・香港にてチャリティイベントを企画、両国との架け橋として活動を続けている。

25歳で始めた木版画はプロフェッショナルとなり、日展会友、白日会正会員。

2005年「紅樓依緑」が日展特選を受賞。これまでに14回の日展入選を果たし国内外で個展を開催中。

また近年、本格的に国内外でのドラマに完全復帰。2018年シングルCD「ほほえみをありがとう」（日本コロムビア）に続き、12月には念願のジャズ・アルバム「Always」がリリース、続いて台湾とシンガポールでもリリースされた。

2022年「外務大臣表彰」・「文化庁長官表彰」のダブル受彰の栄譽を賜る。

2023年故郷台湾台南市美術館にて木版画展を開催。入場者記録を更新。

2024年台北新光三越にて、建築家である兄翁祖模と初の兄妹展「藝境畫篇02」を開催、多くのメディアに取り上げられた。

現在、開発途上国の子供たちを支援するワールドビジョン・ジャパンの親善大使の他、ポリオ根絶大使、日本介助犬協会介助犬サポート大使を務めている。

ジュディ・オングホームページ <http://www.judyongg.com/>

世界連邦宣言自治体全国協議会総会 開催

7月25日、世界連邦宣言自治体全国協議会総会が京都テルサのセミナー室での対面とオンラインの混合方式で開催された。



山崎善也会長(京都府綾部市長)が最近の国際情勢に触れつつ開会の挨拶を行なった。一般社団法人・世界連邦運動協会の大橋光夫会長と世界連邦日本国会委員会の衛藤征士郎会長からのメッセージが代読された。

規約に基づき、山崎善也会長が議長を務め、総会議事に入った。前年度の事業実施報告・決算報告・本年度事業計画・予算案が原案の通り承認された。事業実施報告ではイスラエル・パレスチナに停戦を求める書簡の送付、北朝鮮の弾道ミサイル発射に対する抗議声明などが紹介された。また、世界平和と難民救済のための自治体職員1人100円募金運動により148自治体から4,547,446円を集め、国連UNHCR協会・日本ユニセフ協会・ウクライナ大使館・日本赤十字社に寄託したことが紹介された。ウクライナ大使館への寄託はウクライナ人道危機への支援のため、日本赤十字社への寄託はイスラエルとハマスによる武力衝突を受けてなされた救援・復興支援活動の一環である。

総会に続き、一般社団法人・世界連邦運動協会の木戸寛孝事務総長が「世界連邦運動の役割」と題して講演を行なった。木戸氏は、ウクライナ侵攻を例に国連は進化の過程にあり、さらに進化しなければならないと主張した。そして、国家における統治と対比させる形で法の支配(国際刑事裁判所)・財政(国際連帯税)・参政権(国連議員総会)・警察(国連緊急平和部隊)の四つの面について、仕組みの解説と、世界連邦がこれまで果たしてきた役割などについて語った。



また、木戸氏はこの前日の7月24日に世界連邦6団体で上川陽子外務大臣と林官房長官に政策提言を行なったことも写真つきで紹介した。政策提言が自治体協議会総会の前日になったのは偶然であるが、コロナ禍以来久しぶりの政策提言を最新の話題として提供されたことは参加者にとっても喜ばしいことであったに違いない。

(塩浜 修)

世界連邦京都・大阪 令和6年度総会を開催

2024年7月23日(火)ガーデンオリエンタル大阪にて世界連邦京都・大阪の令和6年度総会を開催し、37名の方にお越しいただきました。



4月1日に本部が一般社団法人格を取得し、それに伴い私たちも名称を『世界連邦 京都・大阪』に変更し、一般社団法人世界連邦運動協会の加盟団体として登録されました。そして今回、変更後初めての総会となり、本部一般社団法人世界連邦運動協会からは木戸寛孝事務総長と中野寛成副会長にご参加いただいたのです。



総会終了後の懇親会では、木戸事務総長からご挨拶をいただき、中野副会長の乾杯のご発声にて懇親会がスタートしました。2007年に国際口笛大会で優勝なさった儀間太久実(ぎまたくみ)さんによる口笛の演奏を聴き、またご参加の皆様の自己紹介をしながら、美味しい食事と楽しい話に盛り上がりました。

木戸事務総長からは、大橋会長の世界連邦運動に対する想いや一般社団法人世界連邦運動協会のこれからの方向性、私たち京都・大阪の加盟団体としての役割などをお聞きし、身の引き締まる思いでした。また、中野副会長のロシアウクライナ問題やイスラエル問題について詳しく教えていただき、世界連邦運動の必要性を再確認しました。お二人のお話を聴き、湯川秀樹博士・スミ夫人の想いが脈々と続く、この京都・大阪の役割はとても重要だと改めて感じた次第です。



これからも、出前平和学習や小中学生ポスター作文コンクールを実施、推進しながら活動を続けて参ります。ご参加、ありがとうございました。

(世界連邦 京都・大阪 税所 貴一)

モンゴル国での世界連邦都市宣言 人類愛善会 副会長 宮下 愛善

モンゴル国の二つの自治体で世界連邦都市宣言が行われています。2009年6月ウブスハンガイ県グチンウス村(ウランバートルの西方600km)で第1号宣言、また2016年8月、スフバートル県ムンフハーン村(ウランバートル市の東南約500km)で第2号宣言が行われました。今年6月に日本から担当者がグチンウス村を訪ねたところ、うれしいことに、お願いしていた現地の子供たちから小中学生平和ポスターコンクールの応募作品を初めて受け取りました。海外からのポスター応募は、ネパールに続いて2国目です。



人類愛善会*の創始者は、100年前の1924年、モンゴルに渡航。アジアから平和を広めることを目指し、さらに中東エルサレムへの道を進む、という壮大な構想を実行しようとしていました。

100年前の構想は道半ばとなりましたが、志を継ぎ、20年前にモンゴルに人類愛善会の拠点を設け、世界連邦都市宣言などの平和活動を後押ししています。

世界連邦都市宣言は、世界で約1000(日本は350)の自治体により行われました。今世紀に世界で宣言が行われたのは、おそらくモンゴルの2自治体だけでしょう。

モンゴルは、ソ連の強力な影響下の社会主義体制にありましたが、ベルリンの壁の崩壊後、1992年、社会主義を放棄。同年、世界で唯一となる「一国非核地帯」(核の配備、通過も禁じる)を宣言し、1988年に国連が承認、2000年には核保有五大国による承認も得ました。中露両国に完全に挟まれる中、核兵器の影響を頑なに拒む姿勢を打ち出したのです。今もなお、中露との大国外交に苦慮しています。難しい政治環境の中で、現地の方々は平和を希求する気持ちを強く持たれているようです。

アジアから広げる世界平和運動は、支配、偏見、理不尽に抗う涙の数々を経験したアジアだからこそ、温かい本物の平和を希求する活動ができるのではないのでしょうか。世界連邦の形で平和を実現させる日を願いつつ、運動を続けていきたいと思えます。

*人類愛善会：創始者は出口王仁三郎。宗教法人大本(おおもと)の平和活動団体。大本は明治25年(1892年)開教の神道系宗教。われよし(利己主義)を強く諫めています。

世界連邦関係各団体の動き

- ・9月17日 世界連邦平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
- ・9月21日 国際平和デー 平和を祈る鐘打式（日枝神社）
- ・9月21～23日 はちどりクラブ「広島平和祈念ツアー」
- ・10月22日 世界連邦仏教徒協議会 新役員発足披露の会
- ・10月29日 世界連邦平和を考えるフォーラム学習会（オンライン）
- ・11月9日 綾部世界連邦運動協会 地球市民の集い
- ・11月20日 第43回世界連邦平和促進全国宗教者・信仰者 京都大会
- ・11月22日 世界連邦運動協会 第2回役員会

編集後記

☆9月21日に東京の日枝神社で開催された「平和を祈る鐘打式」に参加。参加者全員で鐘を鳴らすことになり、次々と厳かで美しい鐘の音が木霊するかのよう聞こえてきました。運営担当の私も初めて鐘をならしたことにより、平和を願う世界の人たちと「鐘の音」でつながる思いがし、恒久平和の実現に尽力する志を新たにしました。（川口）

☆これから総選挙が始まる。世界連邦日本国会委員会の会合に積極的にご参加された先生方にはぜひ勝ち残り、今後もご指導いただきたい。（塩浜）

☆2022年2月24日にロシアが始めたウクライナへの軍事進攻に端を発する戦争は、2024年9月17日付け THE WALL STREET JOURNAL によれば、死傷者数が両国合わせて約100万人に達した。ウクライナ軍の死者数8万人・負傷者数40万人、ロシア軍の死者数は最大20万人近くで負傷者数40万人という推計だけでも死傷者数は100万人を超え、これに民間の死傷者数を加えれば、さらに多くの死傷者数になる。一方、2023年10月7日、イスラエルによるパレスチナ抑圧に反抗してハマスとパレスチナ過激派の戦闘員が「ガザ地区とイスラエルとの間にイスラエルにより築かれた障壁」を突破し、イスラエル側を攻撃して、イスラエルの民間人695名（子供36人を含む）と外国人71名、治安部隊373の計1,139名が死亡した。これに対するイスラエル軍による過剰な報復攻撃はすさまじく、OCHA(国連人道問題調整事務所)の10月2日発表によれば、戦闘開始以来、ガザ地区では4万1689人が死亡した。いずれの戦争においても、死傷者だけでなく甚大な環境破壊がもたらされている。しかも戦争が当初の当事国・集団間だけでなく関係諸国に拡大する傾向が強まっている。人権侵害は国家の主権を超えて普遍的に禁じられるべきであり、人権侵害を引き起こす最たるものが戦争であるから、戦争を引き起こすことは今や国際法に反する犯罪以外のなにものでもない。また、人為的な地球温暖化ガスの排出による気候変動がもたらす甚大な災害が進行しつつある現在、戦争をしているときではない。世界的な課題については、世界連邦のもとでの公正で民主的な国際法・国際統治・国際税・国際裁判・国際治安の実現に向かわなければならない。（平口）

あなたも世界連邦運動協会の会員になって一緒に活動してみませんか

入会希望の方は、郵送かFAXまたはEメールにて、住所・氏名・電話番号・メールアドレスを本部事務局へお知らせください。またEメールでお申し込みの場合は、件名に「入会申し込み」と明記してお送りください。

普通会員年額5,000円 維持会員年額10,000円 賛助会員年額15,000円



世界連邦運動協会 本部事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋2-15-17 リッツ虎ノ門4F-BC
電話 (03) 6438-9442 FAX (03) 6438-9443
E-mail info@wfmjapan.org